

今市地震（1949年）による地滑り

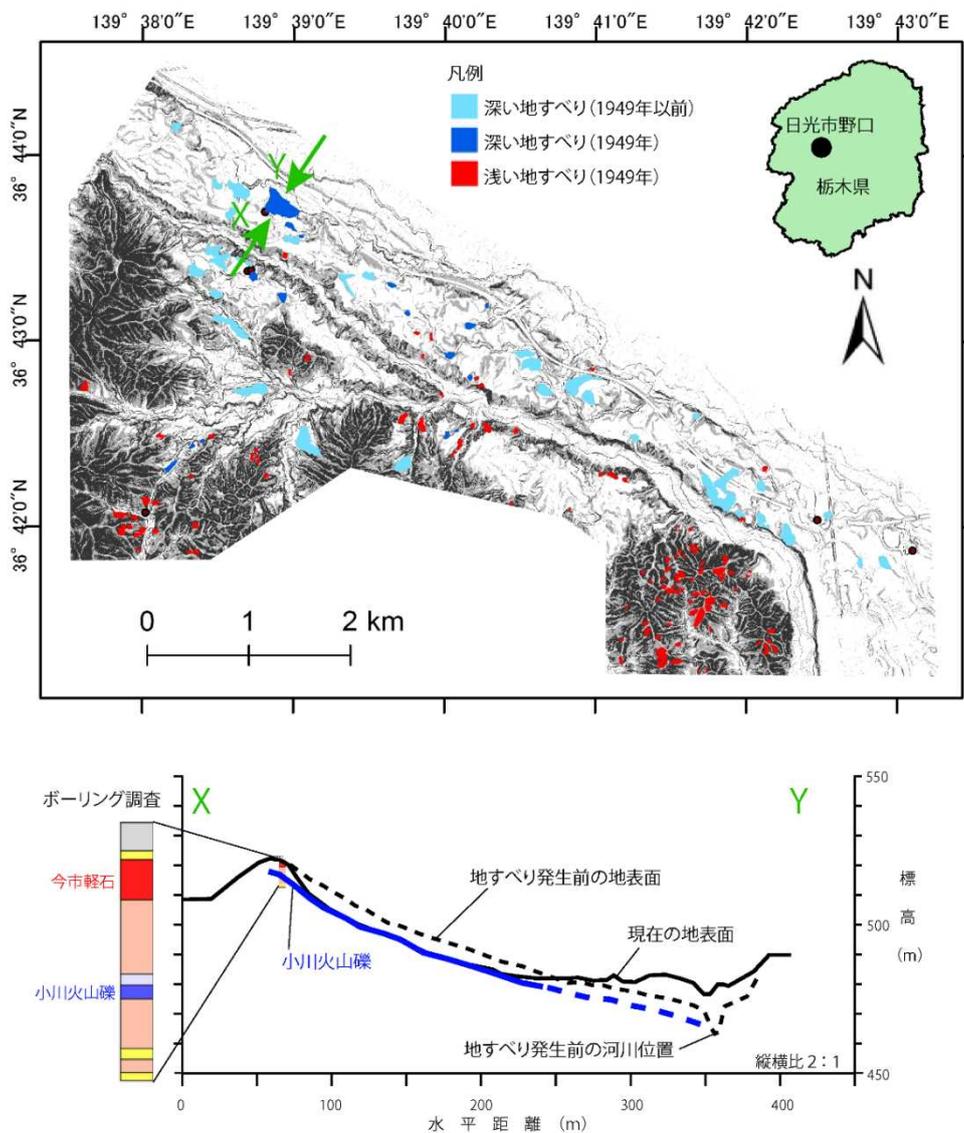


図12 今市地震（1949年）による地滑り

上図：1949年今市地震（M6.4）による降下火砕物の地滑りの分布。この地震が栃木県今市市（現日光市）で引き起こした多数の地滑りを明らかにするために、航空レーザー計測を実施した結果、緩斜面で16箇所の深い崩壊性地滑り、急斜面で141箇所の浅い崩壊性地滑りが発生したことがわかった。また、この地震以前にも40箇所の深い崩壊性地滑りがあったことが認められ、降下火砕物の地震時地滑りの危険性は容易には減少しないことがわかった。

下図：野口の地滑りの断面図。上図中の緑の矢印の間の地滑りの断面図を示す。緩斜面が滑り、下方の河川を閉塞し、現在でも残存する天然ダムを形成した。ボーリング調査の結果、滑り面は深さ約5mにある小川火山礫層にあることがわかった。リングせん断試験によると、小川火山礫層は容易に破碎・液状化しやすく、高速で流動的な崩壊性地滑りの原因となったことがわかった。